＜第１回常任理事会報告＞

核兵器廃絶と「紛争は武力を使わず話し合いで」は憲法９条の真髄

５月３０日の県大会及び６月１３・１４日の日本平和委員会全国大会を受けて第１回の常任理事会が１６名の参加で６月２７日開かれました。 内容は年間スケジュールと運動の中心テーマや夏の戦争と平和を考える特別旬間等について話し合いました。

１.県大会の方針に基づき今年度の運動の軸足をどこに置くのかを話し合った.

ここ数年は「憲法守れ」の運動を重点的に取り組んできた。 そして各平和委員会の地域での活動や県段階の取り組みの中から、 ①県民へのアピールの飛躍的な取り組み強化。 ②平和委員会の力量の前進。 ③全国の平和勢力と一緒に憲法を守る運動に貢献できた。 ④これらのは成果は憲法改正を国民の審判に仰いだ参議院選挙で安倍政権を敗北させた.

２.以上のような状況を踏まえてこれからの運動の取り組みを、①二度と改憲を口に出させないためにこれまでの取り組みを引き続き強めていくと同時に、 ②世界及び日本の平和をめぐる状況は核兵器廃絶の課題に移りつつあり、 県平和委員会も取り組みを本格化させなければならない。 県民へのはたらきかけも、 核兵器廃絶・安保・憲法をその柱としていく.

３．国民平和行進・原水爆禁止世界大会

国民平和行進や世界大会の取り組みについては、 各平和委員会が各団体と協力していく。 今後の問題点等についてはお互いに出し合い来年に活かしていくようにする.

４．米空母寄港化阻止、横浜市長選挙支援

６月２８日投票日の横須賀市長選挙の支援要請については、 常任理事会の討議が間に合わなかったので代表理事・事務局の判断で多少「財力」のある８つの平和委員会から５０００円づつ拠出してもらい４万円を送りました.

５．戦争と平和を考える特別旬間

現在、 実施する平和委員会は以下の１職場・１７地域（昨年は１１地域）です。 さらに多くのところで実施出来るよう事務局と各平和委員会で話し合っていきます.

北茨城　太田　日立　那珂　水戸西　花だいこん　友部　小美玉　石岡　土浦　八郷　阿見　茎崎　取手　守谷　下妻　結城　五霞　以上１８ケ所。 詳しくは次号で紹介.

６．活動交流集会

①８月１日（土）午前１０時～午後４時　・県立青少年会館３室

②テーマについては核兵器廃絶・安保、 憲法問題、 仲間づくり等を柱に地域でのどのような活動活動しているか等を交流する.

③ただし、 総選挙投票日が８月２日や８日になった場合は柔軟に対応する.

７．代表理事・常任理事の任務分担　（下線は責任者）

（１） 組織強化委員会：水野　植田　中山熙之　前田　人見　近藤
（２） 宣伝行動委員会：山口　前田　川又　風間　神長
（３） 学習運動委員会：藤田　飯村　川又　池田
（４） かわら版編集委員会：木村　（事務局）
（５） 財政担当：稲田
（６） 事務局：藤田　木村　稲田
（７） 日本平和委員会理事：水野（常任理事）　植田　加藤　川又　山口

＊ 当日欠席に常任理事の方については、 希望を聞いて決めさせてもらう.

９条の会とうかい結成総会

小森　陽一さんが・・・やってくる！

０６年４月に「９条の会東海準備会」を立ち上げて以来、「日本の青空」上映、ＤＶＤ「昭和と戦争」連続鑑賞会、戦争体験を聞く集いや講演会などを行なってきました。 今回、全国各地で活躍されている全国９条の会事務局長の小森さんをお招きし、「９条の会とうかい」 を結成することになりました.

是非、 東海村以外の方もお誘い合わせご参加ください.

と　き：７月１１日（土）午後２時～４時
ところ：東海村文化センター大会議室
内　容：「９条の会とうかい」 結成総会
講　演：「今、 憲法９条を語る」
講　師：小森　陽一さん

※５時からは小森さんを囲んでの交流会

平和行進の原点を探る、必読本

国民平和大行進の創始者、 西本あつしの１９５８・５９年の行進日記（菊池定則編著）を群馬の菊池さんから１０冊送って頂きました。 原水爆禁止・平和行進に関心ある方には必読です。 定価１３００円ですが、 ２０００円で買ってもらい、 ７００円は故人の供養に使って頂くようにしたいと思います。 事務局までご連絡ください.

平和かわら版
平和新聞茨城版
No.536
月３回　発行
2009.7.5

発行：茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

国民平和大行進はひとりの男の歩きから始まった

今日も県内を国民平和行進はすすんでいる．　この行進は何時からどの様に始まったのだろうか．　改めてその原点に思いを馳せ記してみた．

ひとりの男がひとりで行動に立ち上がった．　西本あつし．　時は１９５８年6月２０日．　所は広島．　目指すは東京で開催される原水爆禁止世界大会第４回世界大会に向けての１０００キロの行進．　１９２５年、　高知県生　（当時３３歳）．　６２年4月．　酔っぱらい運転手の追突事故に合い故人となる．　享年３７歳．　人生８０歳を考えると死ぬ前の１０年間で全エネルギーを平和闘争に燃焼してしまった感がある．　群馬で活躍した男．

彼は行進が始まる前に事前に相談したがみんな　「無理」だと言って相手にしてくれなかった．　では「俺がひとりで歩く」と行動を起こした．　日本山妙法寺の僧であった彼は「歩く」　事は修行の意味もあった．

急遽、　故人の日記を保存していた群馬の大先輩菊池定則さんに電話した．　「西本あつしの平和行進のした時の日記を見たい．　すぐ有るだけ送ってほしい」．　８６歳になる大先輩．　翌日１０冊おくってくれた．　西本が５３日間、　１０００キロ歩き、　毎日綴った日記．　いま、　読みながらこの記事を書いている．　１日１日、　一句一句が珠玉で連ねられている．　彼の日記は1958年の広島―東京、　翌59年6月16日―8月４日の与論島―広島の２年分がある．

日記はその人の気持ちが素直に記されるものである．　文字だけでなくその行間も読みたい．　平和に関心のある人たちにぜひ読んで貰いたい．　学習会等に活用してもらうために５３日間のすべての日記を印刷したいと思っている．　取り敢えず紙面の許す限り載せてみます．　（伊達）

平和行進創始者　故西本あつし

＜行進日記＞

六月二十日　広島にて

「亡くなった広島のお友達も行進に参加している」。これは私達が広島を出発のとき、私の胸につけてくれた広島の子供達の折った折鶴に書かれてある言葉であった。

六月二十一日　安浦町にて

今日は市街地を離れて田舎に入ると参加者もだんだん少なくなり、　正午前にはとうとう倉知さんと二人になってしまった。最初から一人になることもあるだろうとは思っていたが、幸いまだ倉知さんがいて下さった。

二人で峠を越えた時の暑さは苦しかった。

六月二十三日　三原にて

忠海町を経て、　砂ぼこりの暑い道を歩いていたら、　一人の青年が追いかけて来てアイスキャンディー三本をくれ数時間行進に参加してくれた。その青年が内海の島を指していろいろと話をしてくれた。　戦争中、　あの島で毒ガスがつくられた、　あれが毒ガス島です、あの島で毒ガスをつくるためにこの近くの若い者がみんな勤めねばならなかった。その毒ガス島で働いていた人は、ちょっとしたことにも憲兵の眼を感じなければならなかった。この島で働いた人々は今でも毒ガスのために体をおかされて、　病気で亡くなって行く人々がある。　これらについてはどこからも補償はされていない。

七月七日　明石―神戸

すでに十万人の人々が参加したと伝えられる。　炎天下の行進、　一同疲労回復のため注射を受ける。

七月八日　神戸―西宮

西宮市では、　ブラスバンドに数千名の大衆参加を得、　市役所前で大衆集会が開かれた。

七月九日　西宮市―大阪

白衣を着けた西宮医療連合の方々が参加。国道の両側は各学校の生徒達で拍手の連続、　各労働組合、　婦人会、　宗教団体も参加、　数千名の行進は続けられた。

七月十七日　大垣―岐阜

私は長崎にいました、といって私の手を取って下さった方がいた。何もいわずに全身からでる声が、　たった一言「お願いします」。　歩きながら考えた。　この一言の中にどんな多くの言葉にも、どんな立派な言葉の中にも聞くことの出来ない大切な言葉を聞いたように私は感じた。　「お願いします」。　ふるえるような声であった。　そして力のこもった声であった。　涙の声であった。私は未だかつてこんな力強く私の心を打つ声を聞いたことがなかった。私の全身がその声を聞かなくてはならない。

本年最高の三三・七度と聞いて途中でおどろいた。　舗装道路のアスファルトがとけて、　靴にくっつき、　一歩一歩にピタピタと音をたて歩くことに困難を感じた場所もあった。

七月二十九日　焼津にて

近くの高等学校の生徒さん十数名が見える。高校生の平和運動について、　原水爆禁止運動について。　原水爆禁止の運動を始めようとしたら、　政治的な目で見られた。　どうすればよいか。　平和の行進には町や村の代表が参加した。　だからみんな安心して参加した。

八月七日　横須賀にて

今日行進中二人の少年が参加。その一人が一枚のビラを持って来て、　これ僕が作ったビラですと言って一枚くれた。　そのビラには日本の核武装について簡単ではあるが重要な事が書かれてあった。　一人の少年が誰に聞いたのか、　また新聞から抜き書きしたのか。　自分で印刷して自分で配る。　大人でも誰でも出来そうであってなかなか困難な事を、少年がやっている。

八月十一日　東京

広島から東京へ、　五十三日、　百万以上の人々が参加されました。　感謝いたします…。　平和の行進は東京に到着しました。　しかし、　到着点ではありません。　平和への出発点であります。　合掌